

---

# 加護の中

白兎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

加護の中

### 【Nコード】

N9684L

### 【作者名】

白兔

### 【あらすじ】

柵の中で生活している兄弟。変わらぬ日々。いつまでも一緒にいられたらよかった。

仲のよい兄弟がいました。

本当は妹もいたのですが、生まれてすぐに死んでしまいました。  
だから兄弟はその分、お互いを大切に思うようになりました。

「今日も雨だ」

「ずっと雨だね。早く青空が見たいな」

4つの瞳は同じ方向を向いています。

空は灰色一色で、ひっきりなしに雨が降っています。

「お兄ちゃん」

「ん？どうした？」

弟はなにやらもじもじしています。

「えっと・・・ね」

今度はうろろし始めました。

「あのね・・・」

「・・・なんだよ」

兄は苦笑いを浮かべながら、弟を自分の方へ向かせました。

「はい、なんででしょうか？」

「外の世界へ行きたいね」

「・・・そうだね」

「いつになるかな？早い方がいいなあ」

弟は毎日飽きずに同じことを言います。

兄は何も言わず、空を見つめました。

視界に入っただのは、

空と、

弟と、

彼らを囲む鉄柵でした。

明くる日、弟は早く起きました。兄はまだ寝ています。

「ここからぬけ出したら、何が待っているんだろう」

辺りを見回しながら、脱出できそうな箇所を探しました。

ですが、結果はいつもと同じ。

為す術がありませんでした。

弟は諦め、兄が起きるまで、また眠りにつきました。

それから数十分後、

「開いた・・・」

物音で兄が目を覚めました。

この場に来てから柵の扉が開くことはありませんでした。

外の世界の者は食べ物や飲み物を与えてはくれますが、

決して彼らを外へ出そうとしたことはありません。

「起きろ！早く！」

弟は何事かと驚き、兄の方を見ました。  
兄の先には開いた扉。

「あ．．．こ、これって」

「外へ飛び出せるんだ！．．．やっと！」

兄は興奮気味です。

「ほほほ本当に！？」

弟の動揺も負けていません。

「ずっとこの時を待つ」

弟の言葉は最後まで聞くことは出来ませんでした。

「な．．．」

兄は呆然と見つめました。

有無を言わず連れていかれた弟を。

兄が現状を認識できたのは、しばらくしてからのことでした。

「妹だけでなく、弟までも．．．」

彼は怒りよりも悲しみの方が強く、ただただうなだれるしかありませんでした。

昨日、弟が言っていた言葉を思い出しました。

外の世界へ行きたいね

「ああ、そうだ。でも・・・2人一緒になければ意味がない！」

兄は格子を蹴りました。力を込めて蹴りました。  
その次は体当たりをしました。

結果は身体を痛めただけで、壊すことはできませんでした。

「あああああ！！！」

彼は発狂し、

「独りで何が楽しいんだ！」

糸が切れたように倒れました。

次の日、外の世界の者が柵の前にやってきました。  
その手には、兄のための食料があります。

柵を覗き込むと、倒れていることに気づきました。

驚いた彼女は慌てて叫びました。

「ママー、見て！小鳥さんが動かなくなっちゃった！」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9684/>

---

加護の中

2011年10月4日08時20分発行